

# はじけるこころ

Vol.43

まいにち学校 まいにち街 中 こどもの笑顔につなげる

発行 箕面市人権教育推進会議  
箕面市教育委員会 人権施策課

TEL 072-724-6921  
FAX 072-724-6010

E-mail:edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成28年度



## 箕面市人権教育推進会議

- ①—精神障害の理解を深める教育  
ハートパークの取組—

平成28年（2016年）11月2日

（水）

講師 社会福祉法人息吹  
切通 晃さん

石原 真知子さん

「箕面市人権教育推進会議」は、有識者や市民、教職員等で構成され、市の人権教育の推進や、調査研究・広報等を検討する組織です。今年度二回目の会議では、「精神障害の理解を深める教育 ハートパークの取組」をテーマ

に意見交換を行いました。  
社会福祉法人息吹（以下「息吹」といいます。）は、箕面市内の精神障害者のかたを対象に、地域活動支援センター、相談支援事業、就労継続支援B型事業所、グループホームを運営しています。息吹がかつて施設を移転しようとした際、地域住民による移転反対運動が起こりました。そのため、精神障害を市民に理解してもらう事業として「ハートパーク」という取組を始めました。

この事業では、小学生向けワークショップと地域市民向け講演会を行っています。小学生向けワークショップは、萱野北小学校で毎年実施しています。6年生を対象に、「人によって感じ方、表現の仕方はまちまちだ」ということを体験するワークショップをしたり、当事者から直接話を聞いたり、実際に働いておられる「もみじの家」で一緒に作業をしたりしながら、精神障害について理解を深めます。

各活動ごとに参加者を対象に、体験前と体験後でそれぞれアンケート調査を実施していますが、体験前と比べて体験後では、精神障害に対する理解がとても深まっています。当事者のかたとの直接の関わりがいかに有効で大切かがわかります。

## むくじ

### 箕面市人権教育推進会議

- ①—精神障害の理解を深める教育  
ハートパークの取組— 1

- ②—すべての学校園所で取り組む部落問題学習／教科書をベースに思いいに迫る～ 1

- かやのお宝人権まつり 2

- 「英語は楽しい！」を広げるA-L-T 4

### イキイキさわやかに学ぶ会

- ①—発達障害ってなんだろう？  
～発達障害の理解と対応～ 4

- ②—知っていますか？～今学ぶ、  
部落問題～ 5

- ③—暮らしに根付いた人権意識・私たちは子どもを守っているか 5

### 多民族フェスティバル2016 6

### 図書館司書さんより 7

### 「意見・」感想 8

### 「意見・」感想 8

「意見・」感想をお待ちしています！

会議の委員からは、「萱野北小での取組を市内全校に広げてほしい。」「小学生向けの取組を保護者向けにも実施してはどうか。」という意見が出されました。当事者のかたと直接、関わることを通じて精神障害を理解する教育、啓発活動を子どもにも大人にもどのように広げていけばよいか、考えさせられました。

(2) ─すべての学校園所で取り組む部落問題学習─  
平成29年(2017年)2月6日(月)  
箕面市役所 教育委員会室  
講師 箕面市立西南小学校教諭 山北 智さん

今年度二回目の箕面市人権教育推進会議では、「すべての学校園所で取り組む部落問題学習」(教科書をベースに思いに迫る)をテーマに意見交換を行いました。

講師の山北さんは大阪府や箕面市の人権教育研究会で人権教育の研究、実践、啓発に長年かかわっています。山北さんは現任校の西南小学校に転勤した頃、同僚の教員から、次のようなことを聞いたそうです。  
「部落問題学習って、難しい。どのようにしていけば良いか、わかりにくい。」  
そこで考えたことが、教科書をベースとした部落問題学習です。教科書の内容で取り組むなら、どの教員でも部落問題学習ができるのですが、という思いから、社会科の教科書を使った部落問題学習を行い、他の教員への研修等も行っています。

今回、部落問題学習の授業として「解体新書」と「基本的人権 教育を受ける権利」(教科書無償化)について紹介してもらいました。

○ 解体新書の出版に欠かせない作業であった人体解剖。この人体解剖を行い、杉田玄白や前野良沢に人体の説明をした人は、当時差別されていた人々の一人でした。この授業では「その人は、どんなことを考えて、どんな気持ちで、解剖をしていたのだろうか。」と、差別された人の思いに迫ります。



○ 教科書は無償でもらえるもの。今では常識のように思われています。しかし教科書無償化は、高知県で差別された地域の人々等による、必死の運動によって実現されました。「この地域の人たちはどんな思いで運動を続けたのだろうか。」と、子どもたちに投げかけます。

授業の紹介後、部落問題をめぐり、よくある疑問である「学校で部落問題を教えないければ、部落差別はなくなるのではないか」ということについて、その疑問が発せられる背景を話し合いました。委員からは「授業等で正しく知るだけでなく、『考える』活動を取り入れるのが、子どもたちにとってよいのではないか。」などの意見が出されました。

「差別はアカン」と教え込むのが部落問題学習ではありません。子どもたちに「こんな」とがあるのだけれど、みんなはどう思う?」と考えさせる。山北さんが最後に言つた言葉がとても心に響きました。

(事務局)

## かやのお宝人権まつり

平成28年(2016年)10月30日(日)  
らいとぴあ21 芝生広場

秋晴れの日、十一回目となる「かやのお宝人権まつり」(以下、「お宝まつり」といいます。)が開催されました。お宝まつりのねらいは、「まつりに関わった一人ひとりが、日常生活の中では出会うことがなかつたかもしれない人と、まつりを通じて出会うこと。また、その出会いを非日常の一日で終わるの



ではなく、日常のつながりにすること」です。一人ひとりの「素敵な出会い」をつなぐこと。それが「誰もが安心して住み続ける」とできるまち」につながると思うからです。

さて、十年続いてきたお宝まつりですが、今回は新しい企画にチャレンジしました。「コラボ屋台」であります。これは、屋台出店者と子どもたちが準備段階から協働するもので、子どもシェフだけの鶏ごはん屋台ブースもありました。当日は、会場のあちらこちらでイキイキと活躍する子どもたちの姿が見られま

した。

ステージでは、らいとぴあ21で日々練習をしている「北芝解放太鼓保存会 鼓吹」等の子どもたちの真剣なまなざしが見られました。別会場では、新しく作られた「北芝の歌」に乗せて踊るダンスコンテストが開かれ、子どもたちのパフォーマンスに、観客は皆沸き立っていました。

箕面市のイベント内や公共施設、ショッピングモール等で多様な仕事の体験ができる「まーぶハローカード」で、お宝まつり開催を聞きつけた子どもたちから「ふろしき市をやりたい!」という声があり、実現しました。

「まつり」という懐の広い箱を置いてみると、それだけで「こんなことをやりたい!」という声が子どもたちから湧き上がる。そして、不安ながらも新たな企画にチャレンジしてみると、「やりたい!」と言つて一番乗りしてくれるのも子どもたちです。今年は子どもたちのパワーと興味や関心の高さに改めて気づかされたまつりとなりました。

日々、子どもたちの「こんなことやってみたい!」に耳を澄ませ、その実現と一緒に楽しんで併走できるようならいとぴあ21でありたいと改めて思いました。

ワーク」には、ステージ発表を終えたかやの幼稚園や萱野保育所の沢山の子どもたちが参加しました。「子どもふろしき市（子どもたちだけがまーぶハローカードで売り買いできるフリーマーケット）」は、当初、お宝まつりの企画にはなかったのですが、お宝まつり開催を聞きつけた子どもたちから「ふろしき市をやりたい!」という声があり、実現しました。



**子どもたちの感想**

- お宝まつりでお手伝いをして、楽しかった。
- お宝まつりで、他の国のこと教えてもらうことがあった。とても大変な国があるとわかった。自分にできることがないか考えた。
- 学校で学習した食に関する掲示物が会場に貼ってあり、うれしかった。

## 「英語は楽しい！」を広げる人

小中学校での英語教育拡大の波が全国的に広がる中で、箕面市では一歩先んじた取り組みを展開しています。低学年の頃から生の英語に接し、英語でのコミュニケーションに抵抗のない子どもたちを育てる目的で、箕面市では全小中学校に外国人の英語指導助手（ALT）を配置しています。



ALTに対する生徒や教員の感想を小中一貫校「どどみの森学園」で聞きました。まず1、2年生では、毎日5時間目の前に15分の英語授業があります。ALTの先生から生の英語で、単語や挨拶等の生活英語を習います。アメリカ出身のALTサラ先生の問い合わせに、「2年生のクラス全員が元気に反応して大変盛り上がっていました。『ALTの人気は絶大です。』と同学園の教頭も太鼓判を押していました。

3～6年生では週4回、5時間目の前に行う15分の英語授業と、週1回行う45分の英語授業があります。45分授業では校外学習など身近な出来事についてALTと英語で語り合ったり、時刻表示などを反射的に英語で言うゲームをチーム対抗で競つたりと、こちらも楽しく取り組んでいました。6年生に感想を聞くと、「ALTの先生はフレンドリーで話しかけ易い」「外国人と出会っても自然にハイタッチができるくらい、英語に抵抗が無くなつた。」と好評です。

7～9年生（中学生）では週1回50分のコミュニケーション英語の授業があります。スポーツや音楽から環境問題まで身近な話題に関して、ALTの問い合わせに英語で応える練習をします。コミュニケーション手段として英語を美感する瞬間です。「内容が少々難しくても日本の先生と一緒に授業をするので安心である。」とは生徒とALT双方の感想です。

日本の学校に対するALTの感想は「運動会や文化祭といった行事が多く、クラブ活動も含めて学校生活が生徒の生活の大部分になつていて、アメリカではクラブ活動等は学校と別に地域のクラブに参加することが多い」「日本の先生、特に学級担任は仕事が多くて本当に忙しいと思います。」とのことでした。ALTが加わったことで「英語は楽しい！」という子どもたちの輪が確実に広がっているようです。ALTとのこうした関わりを通して、子どもたちに国際理解、異文化共生への思いが深まっていくのだと思いました。

（編集委員 北出谷 叔宏）

## イキイキとわやかに学ぶ会

① 発達障害ってなんだろう？

～発達障害の理解と対応～

平成28年（2016年）10月7日（金）

箕面文化・交流センター 大会議室  
講師 社会福祉法人北摂杉の子会

臨床発達心理士 大澤 佳世子さん

幼稚園や小中学校の保護者のかたを対象に、人権啓発の連続講座として、毎年実施している「イキイキさわやかに学ぶ会」。今年度第三回目は、「発達障害」をテーマに講演会を実施しました。講師の大澤さんは、幼児期・学齢期の療育や発達検査を長年実施してきた経験から、学校巡回指導で学校現場での教員への助言や保護者への療育相談を実施されています。現在は小学校高学年から中高生

の療育を中心に行っており、不登校などに悩む高機能自閉症やアスペルガー症候群の自己理解支援を専門にされています。



必要か、学ぶ」とができました。

(事務局)

② 知っていますか？（今学ぶ、部落問題）  
平成28年（2016年）11月18日（金）

萱野中央人権文化センター（らいとぴあ21）  
講師 蓦らしづくりネットワーク北芝の皆さん



第四回のイキさわやかに  
学ぶ会では、「部落問題」をテーマに学習会を行いました。

講師はらいと

ぴあ21を中心  
に、人権啓発や  
生活支援に関わ  
る活動などをさ  
れている、暮ら

しづくりネット  
ワーク北芝の皆  
さんです。

この体験例のように、視野がとても狭く見えている場合があります。こうした特性を理解せずに、まわりの人が「何でちゃんと見ていないの。」「どこを見ているの。」と声をかけても、本人は「しつかり見ているのだけど…」と困ってしまいます。

参加者からは「発達障害のある方がどのように感じているか、まわりの人がどう接していくべきかがよくわかった。」などの感想がありました。ちがいを理解し、どのような環境整備が必要か、共に生活していく環境を築くためにどのような工夫や配慮が

やすく説明されました。例えばロールプレイでは、三人一組になり、次のような設定でそれぞれが祖

父・父・母の役になり、どう思つか考えました。

(事務局)

(設定：「家を購入する時」)

- ・父母が家を購入しようとしているが、その土地が部落の地域である。
- ・母はその家、場所をとても気に入っている。  
ぜひ購入したい。
- ・祖父は購入に反対である。
- ・祖父は賛成でも反対でもない。
- ・祖父は購入資金を援助するわけではない。

これらの部落問題に関する体験を通して、参加者からは、「子どもたちへ『差別はいけない』といつても、どう伝えればよいか悩む。子どもたちへの伝え方の一つの方法を学べた。」「部落問題について、自分が間違った認識をしていたことがわかった。」という意見と共に、「つながりを大事に考えてくれる、暮らしづくりネットワーク北芝の活動がとても興味深かつた。」という声もありました。

部落差別は過去のものではなく、現在も残っていることを、子どもたちも含め市民にどのように理解を深めてもらいたい。またその解決に向けて一人ひとりどのようなことができるのか。とても考えさせられた学習会でした。

(事務局)

③暮らしに根付いた人権意識・私たちは子どもを守っているかー

平成29年(2017年)1月20日(金)

講師 箕面市人権啓発推進協議会  
マイフルホール

前田 功 さん  
大道 広子 さん  
平 めぐみ さん

今年度第6回目のイキイキさわやかに学ぶ会では、3名の方を講師にお招きし、「暮らしが根付いた人権意識・私たちは子どもを守っているか」をテーマにお話をうかがいました。

大道さんからは、交通事故により、自らが車いすを使っての生活になられた経緯や、その後の結婚、出産での体験についてお話しいただきました。

平さんからは、同じく車いすでの生活になるまでの生い立ちやその後の体験とともに、現在アーティストとして様々な作品を創作している活動について、お話をうかがいました。

前田さんは、「人権意識とは、人として身につけておかなければならない『身だしなみ』と同じである。」というお話をありました。多様な人の「良い出会い」が、この人権意識という「身だしなみ」を身につける、よい方法だと教えていただきました。参加者からは、「今日は最高の出会いをありがとうございました。」「今日の話について、家に帰つてぜひ子どもと話そうと思いました。」といった感想が寄せられました。

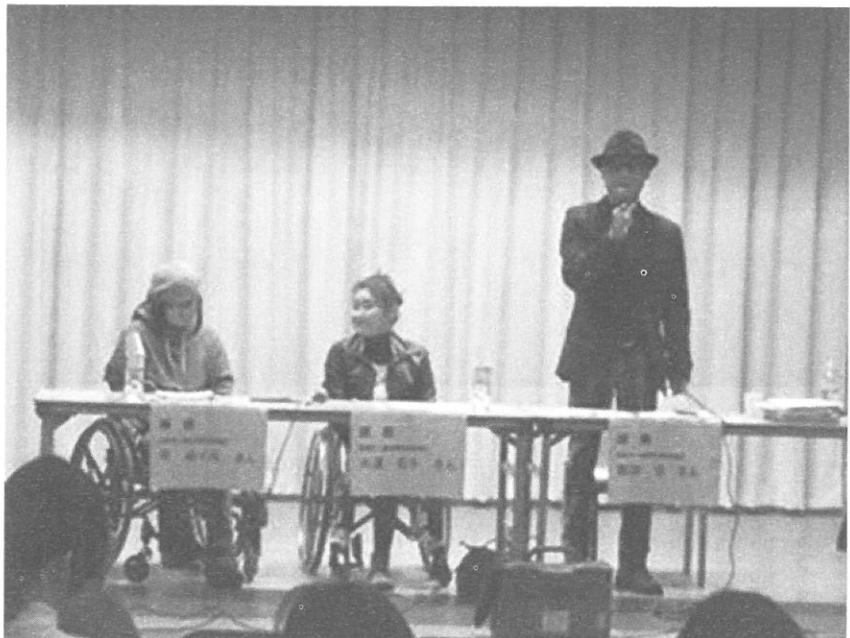
市民の皆さまの人権意識の向上に、この「イキイキさわやかに学ぶ会」が役立つてはいるのではないか

と実感しました。「良い出会い」の大切さを、再認識できた今回のお話でした。

(事務局)

平成28年(2016年)11月22日(土)  
小野原公園

## 多民族フェスティバル2016



「で、ちがい、たのしい」をテーマに開催された今回の多民族フェスティバル。秋晴れの好天の下、紅葉が美しい小野原公園界隈を会場に、三千人を超える人たちが来場して盛り上りました。

例年 多国籍の屋台や出店 音楽やダンスで盛り上がるこのフェスティバルに、今年は新しいコートとして「世界のあそVIVA(遊び場)」が加わりました。子どもたちを中心に世界各国の様々な遊びや歌、ゲームを体験しました。韓国すぐろく「ユンノリ」やロシアのゴム飛び、カンボジアの鬼ごっこ、エジプトやメキシコ、タイのゲーム、さらにはスワヒリ語で歌うコーナーなど多彩な内容で、参加者はスタンプラリー形式で幾つのコーナーに挑戦しました。それぞれのお国柄が出る遊びの中にも日本の遊びとの共通点があり、異文化理解につながる楽しい体験となりました。

例年好評の「世界の屋台村」は、今年も珍しい食を求める大勢の人々を惹きつけ、殆どの店が昨年の売り上げを上回りました。また昨年からゴミの分別を工夫した結果、フェスティバル全体でのゴミの量も削減されました。

メインステージでは、世界各地の音楽や舞踊などが紹介され、民族衣装のファッショントレードショーは、見ている参加者を楽しませました。今年のフィナーレではブラジル音楽に合わせて民族ダンス「クアドリーリヤ」の輪が大きく広がりました。

フェスティバルに参加した人々は、国籍や年齢に関係なく、様々な国の文化に出会い、お互いの違いを理解しながら、共に楽しく過ごすことで、同じ地域の仲間として連帯を深めていきます。既に来年のフェスティバルへの期待も膨らみます。

(編集委員 北出谷 叔宏)



## 図書館司書さんより

### ♪本を読んで幼いころを振り返ろう♪

第四中学校では、三年生が家庭科の授業「幼児の生活と遊びについて知るう」の中で、絵本について考えるため、読み語り(※)の実習を行いました。

たくさんの絵本の中から、読みたい本を選んでもらうため、赤ちゃん絵本や幼児向け絵本を百冊程度用意しました。表紙がみえるようにして絵本を机の上に並べておくと、すばやく見つけた三年生からは、「これを授業で読むの? そんなの恥ずかしい。」という声が聞こえました。

しかし、「これ大好きだった絵本だ。なつかしいな。」といったうれしい声もたくさん聞こえ、絵本を手に取り読み始める人、さっそく読む本を決める人など反応は様々でした。

まず、司書が絵本の定義、必要性、読み語りの注意点を説明し、一人一冊読む本を選びます。読む本が決まつたら、練習をして、班で絵本の読みあいが始まりました。絵本を読みあうことで、心の中にいる幼いころの思い出がよみがえつてくるようで、どの生徒も楽しそうに絵本を読み、友だちの読み語りを聞いていました。

生徒が読み語りをする中で、男女問わず人気の絵本がありました。島田ゆかさんの「バムとケロシリーズ」です。しつかりものの犬のバムといたずら好きなのが見えるのがケロちゃん。何気ない日常が、バムとケロちゃんとかかるとキラキラと輝く楽しい一日になります。ストーリーがおもしろいだけでなく、細部にまでこだわったかわいらしいイラストが魅力的です。

思い出の絵本を通して、笑顔と驚きがあふれた楽しい授業となりました。

(※) 箕面の学校では、「読み聞かせ」ではなく、「読み語り」という言葉を使っています。



【バムとケロのそらの  
たび】  
島田ゆか／作  
文溪堂 1995年

ある日の朝、おじいちゃんから荷物が届いた。  
中身はなんと組み立て式飛行機！早速飛行機  
を組み立てて、いざ出発！



【バムとケロのにちよ  
うび】  
島田ゆか／作  
文溪堂 1994年  
雨の日の日曜日。サッカーや砂遊びもできない。こんな日は部屋のお片付けをしよう！バムとケロは部屋を片付け、絵本を読もうとする

○生徒の読んだ本と感想

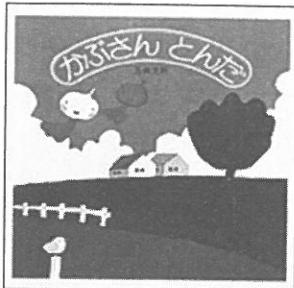


## 【じぶんだけの いろ】

レオ・リオニ／作

好学社 1978年

周りに合わせて色を変えるカメレオンは、自分が色がないことを嘆いています。しかし、もう一匹のカメレオンと出会ったことにより、考え方には変化が生じます。



## 【かぶさんとんだ】

五味太郎／作

福音館書店 1985年

ある日、台所のかぶが空へ飛び出しました。海へ、空高くへ、宇宙へ。いつたいどこまで飛んでいくのでしょうか。

**感想**「読んでいる自分も楽しかった。一ページにいろいろな楽しさがあった。絵本を読むことで、小さい子どもでなくとも学ぶことがたくさんあると思った。」

**感想**「読む前は恥ずかしかったけど、読んでみると意外と楽しかった。本にはたくさんの意味がこめられているとわかった。また機会があったら、本を読んでみたいと思う。」

(箕面市立第四中学校 司書 中野桂子)

## 差別落書きはいつたい許さない

平成28年度は、障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消推進法などが次々と施行されました。

しかしながら、平成28年の年末から年始にかけて、西南・葛野南図書館のトイレで各2件、また西南・中央図書館の本の中に、障害者差別・部落差別を含む落書きが多発発見され、他市の駅でも同様の落書きが見つかりました。

このような行為の背景には、ネット上の大量の差別書込みに有効な対策がないことや、聞くに堪えないヘイトスピーチの横行により、まるで差別的な言動が許されているかのよう。昨今の風潮があり、「うした不寛容な社会のありようが、差別落書き、ヘイトスピーチ、ひいては相模原市で起きた事件のような悲劇を生む土壤になつて」と考えます。

差別や偏見に基づき、相手を侮蔑する落書きは、人の心を傷つけ、見た人に新たな差別意識を植え付けて偏見を助長、拡大させるものです。

障害の有無、出身などの属性に関わらず、多様性が尊重される、真に豊かな社会づくりのため、本市としては、悪質・卑劣な差別落書きはいつさい許さないといつ姿勢で、今後も引き続き、市民の皆様と共に取組を進めていきます。

本市では箕面警察署へ被害届も提出しています。もし、このような行為を見つけられた場合は、各公共施設の事務所などにご連絡ください。一人ひとりが人権を尊重し、誰もが安心して暮らせるまち・みのおをつくりましょう。

箕面市・箕面市教育委員会

## 「はじけるこころ vol. 43」はいかがでしたか？

みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。下記の①～④の内容をファクスまたは郵送でお送りいただくか、Eメールにてお送りください。今後も、より人権教育に関心を持っていただくことのできる記事を掲載していきたいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集員一同お待ちしております！

①ご意見・ご感想、②お名前（無記名でも構いません。）、③「はじけるこころ」の入手方法、④ご意見・ご感想を「はじけるこころ」に掲載する場合がございますので、掲載の可否について

FAX : 072-724-6010 mail : [edujinken@maple.city.minoh.lg.jp](mailto:edujinken@maple.city.minoh.lg.jp)  
HP : <http://www.city.minoh.lg.jp/edujinken/jinken/jinken.html>